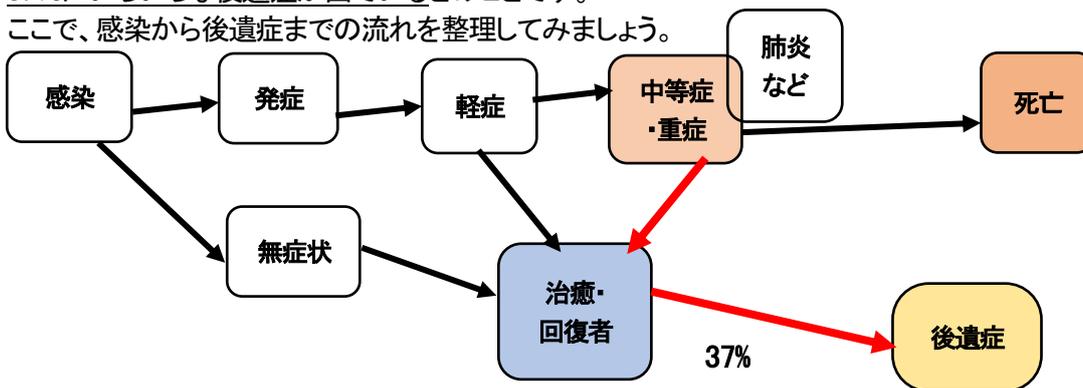


【1】新型コロナウイルス感染症(以下、「コロナ」)は、怖いのでしょうか?

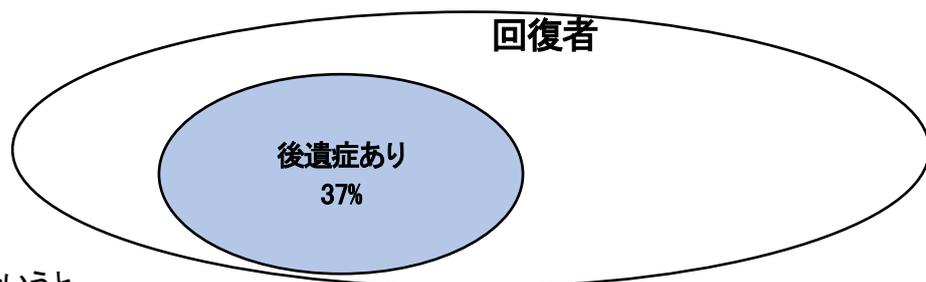
インフルエンザと違って、多くの死者が出ていることは皆さんもご存じでしょう。
今のところ 7/3 現在、世界で 約 397 万人、日本では 約 14,800 人が死亡しています。
インフルエンザと比べてみると、その怖さがよくわかります。インフルエンザによって、戦後は平均すると毎年 13,000 人ほどが死亡していました。予防接種ができる前には多くて、人口10万人に42人が死亡し、予防接種を行うようになってからは10万人に2人の死亡に激減しました。
「コロナ」の死亡率は、世界的なデータでは、インフルエンザの20倍、変異株は30倍~45倍 だと計算されています。単純に掛け算すると、有効なワクチンや治療薬がない場合は、日本における「コロナ」死亡者の数は、今後年に 21,000~31,500 人になると予測されます。(これは、京都市の人口の 1/2.5~1/3 です)
すごい死者数ですね。やっぱり「コロナ」は、他の感染症と違って、大変怖い感染症だと思います。まず、そういう大変なウイルス感染症だよ、ということをお伝えしたかったのです。

【2】助かって後遺症が多い

「コロナ」のもう一つの問題は、たとえ助かって後遺症が多いということです。英国の報告では、回復者の 37%にいろいろな後遺症が出ているとのことです。
ここで、感染から後遺症までの流れを整理してみましょう。



回復者の中の後遺症の割合のイメージ図は、



どういう後遺症が多いかというと、

- ① 慢性呼吸不全(COPD) 一生 在宅酸素療法 をしないとイケない。
 - ② 全身倦怠 寝たきり状態に近い状態になる。
 - ③ 脳卒中、心筋梗塞
 - ④ うつ病、不安症 後遺症のうちの 30%占める
「コロナ」は脳にも炎症を起こし、その結果うつ病や不安症が多く発生することが分かっている。
 - ⑤ 脱毛症
 - ⑥ 味覚障害、嗅覚障害 これは長く残らず、1-3ヶ月でよくなる。
- ⑥を除く①~⑤は、長い間、①③は一生続く。

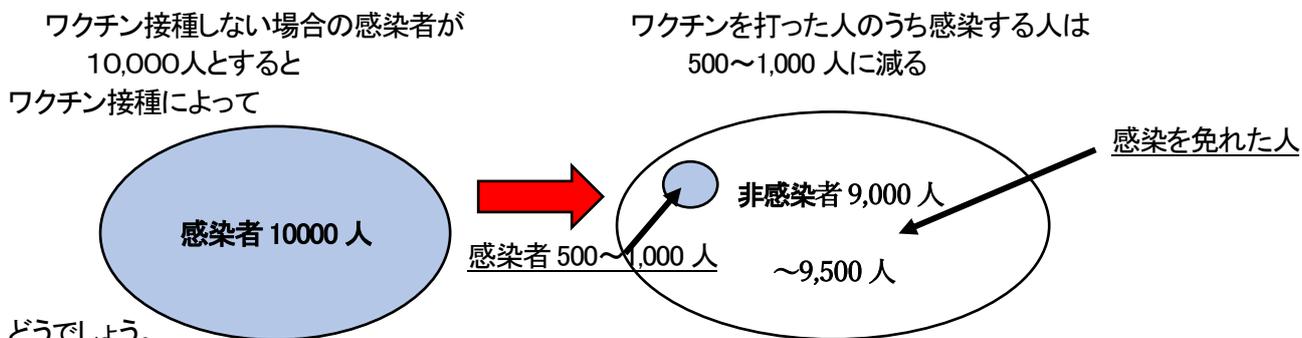
どうでしょう。こんなに多様な後遺症が多数残るのは、「コロナ」ぐらいです。
後遺症の多い点からいっても、やはり「コロナ」は怖い感染症だということをお伝えしたかったのです。

【3】ワクチンだけが頼りです

「コロナ」を治す薬はありません。1年以上かけて、多くの薬が試されましたが、いまだに「コロナ」に効く薬は見つかっていません。これはインフルエンザと決定的に違うところです。インフルエンザにはタミフルやリレンザという優秀な治療薬がありますから、罹ったとしても治したり症状を軽くしたりできます。ですから、「コロナ」に対抗するには、唯一ワクチンしかないのです。幸い、優秀なワクチンが開発されました。どれも92%~98%「コロナ」に感染するのを防いでくれます。今、日本で使える、あるいは近く使えるようになるワクチンは、次の4つです。

RNA ワクチン	ベクター ワクチン
ファイザー製 モデルナ製	アストロゼネカ製 ジョンソン&ジョンソン製

4つとも感染予防効果は、90%以上で、ファイザー製は96%、アストロゼネカ製は98%という成績です。つまり、ワクチンを打つことで、「コロナ」にかかる率は、10%以下に抑えられるということです。ただし2回目の接種が終わって2週間たって、初めて予防できるようになることを知っておいて欲しいのです。(1回打つだけでも、50%は感染を予防できたというデータもあります) ワクチンの有効性を図解してみると、下の図のようになります。



どうでしょう。やはりワクチンを打つことは、大きなメリットがあるよ、とお伝えしたかったのです。ただし、私としては、ワクチン接種を勧めますが、あくまで接種するかどうかは、ご本人の意思によります。決して強制ではありません。

【4】ワクチンの副反応・副作用は少ない

アナフィラキシー症状や血栓形成 など、重大な副作用の報道があるので、ワクチンの有用性は分かったけれど、やっぱり打ちたくないなあ、と思っている人もいるかもしれません。しかし、重大な副作用はまれで、今までファイザー製・モデルナ製のワクチンを打った日本人(4830 万回以上)で、死亡した人は幸い一人もいません。ここで、それぞれのワクチンの副反応・副作用について、おさらいしておきましょう。

赤字は重大な副反応です。

	RNA ワクチン ファイザー製 モデルナ製	ベクター ワクチン アストロゼネカ製 ジョンソン&ジョンソン製
副反応・副作用	<ul style="list-style-type: none"> ① アナフィラキシー ② 注射部位の腫れ痛み ③ 発熱・38℃以上 ④ 全身倦怠感 ⑤ 頭痛 	<ul style="list-style-type: none"> ① 血栓症(脳梗塞、心筋梗塞、肺塞栓) ② 注射部位の腫れ痛み ③ 発熱・38℃以上 ④ 全身倦怠感 ⑤ 頭痛

重大な副作用としては、RNA ワクチン と ベクター ワクチン とで違ってきます。ORNA ワクチンでは、コロナウィルスの RNA のごく一部を注射しますが、RNA はとても壊れやすいために、周りをポリエチレングリコール(PG)で包んであります。PG は、化粧品(ファンデーションなど)で多く使われています。この PG に対する免疫反応が起こってしまうために、RNA ワクチンではアナフィラキシー反応が出ることがあるのです。ただ、その頻度は、100 万回の注射で 40 回程度で、あとの 99 万 9960 回は大丈夫です。

アナフィラキシーは、主に若い女性に起こります。また、たとえ起こしたとしても、その治療方法は確立していて、死亡することはありません。

○ベクター ワクチンを接種した場合に、まれに血栓症が起こって、脳梗塞や心筋梗塞や肺塞栓が起こり、重症だと死亡することがあります。なぜ血栓ができるのか分かっていません。ただ、頻度は100万回の接種で、2-4回程度で、後の99万9996~99万9998回は、大丈夫なのです。

命にかかわる重大な副作用は、大変頻度が少ないので、ワクチン接種を選択することを、WHO はじめ世界中の保健センター(厚労省みたいなもの)が、強く勧めています。

- ②注射部位の腫れ痛み は、1回目接種でも2回目接種でもまず必発ですが、長くて2-3日で治ります。
- ③発熱・38℃以上 についても、1回目接種で30%、2回目接種で60%の人に出来ます。なぜか若い女性に多く出ます。発熱した場合は、カロナールやロキソニンを飲んで解熱しましょう。これも通常1日でおさまります。
- ④全身倦怠感は、同じく1回目の接種で30%、2回目の接種で60%の人に出来ます。やはり若い女性に出やすいです。これは寝て過ごすしかありません。2回目の接種の翌日は休みを取っておくこと、水分補給できるようにポカリスエットなどを2Lぐらい買って枕元に置いておくこと、がお勧めです。
- ③ 頭痛は、1回目で20%、2回目で40%ぐらいの人に出来ます。カロナールやロキソニンが有効です。
ワクチン接種の時には、あらかじめカロナール 500mg 錠などを、4回-10回分処方してもらっておくとよいです。

[5]ワクチン接種後も個人衛生をしっかりとやりましょう

たとえワクチンを接種したからといっても、これまで通りの一般的な感染予防対策・個人衛生(下記)を、続けて行うことは、絶対に必要です。ワクチンを打ったからといって、やめてはいけません。

手指衛生 石鹸での手洗い アルコールによる手指消毒 両方続けてやる	⇒手のウィルスの量が1/1,000になる ⇒手のウィルスの量が1/10000になる ⇒手のウイルス量は1/10,00,000になる
マスク をきちんとつける	隙間のないようにつけることが大事。 不織布のサージカルマスクが一番良い。人に移す率を70%カット 布マスクでは、50%カット。 二重マスクにする必要はないが、正確に二重マスクをした場合には、91-95%カットになる
ソーシャル(フィジカル)ディスタンス	対人距離をとる 3密を避ける
換気	常に空気の取り入れ口から出口に一方に気流が流れるようにする必要がある
体調チェック	検温・酸素飽和度の測定 体調(特に風症状)の申告

しかし、そういった一般的な感染予防対策・環境衛生を徹底しても、α株(イギリス株)やデルタ株(インド株)には、太刀打ちできないとされています。そこで、どうしてもワクチンによる「集団免疫」を作ることが大事になってきます。

α株では1人の感染者が、1.5人にうつしてしまいます。デルタ株では1人の感染者が、2~3人の人にうつしてしまいます。うつしてしまう相手は、家族であったり、同僚であったり、友人であったりします。そこからまた2~3人の人にうつしてしまいます。

その際、感染者の周りの人が、ワクチンを打っていて感染防御力をつけておけば、誰にも感染せずに、その人だけで感染は終息します。これが「集団免疫」の力なのです。

長々と述べてきましたが、「コロナ」の基礎知識と、対応特にワクチンの基礎知識を お伝え出来たのなら、幸いです。

この小論が、皆さまの ワクチン接種するか否かの判断の お役に立てば幸いです。

繰り返しますが、ワクチン接種は、本人の自由意思によるものです。決して、国も自治体も法人も、強制することはありません。メリットデメリットを知ったうえで、よくご自身で考えて、選択してください。